

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,993	t-CO <sub>2</sub>
① （温 室 除 く 酸 効 く 化 果 炭 ガ ス 換 算 ） 排 出 量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,993

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総 排 出 量	1,993	t-CO <sub>2</sub>	1,973	t-CO <sub>2</sub>	1.0

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排 出 量		t- CO <sub>2</sub>		t- CO <sub>2</sub>	

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを3年間で1%以上削減する。
----------------------

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考 3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー行動の実践・冷蔵冷凍倉庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍機ユニットコンデンサー定期清掃の実施。</li> <li>・冷凍設備の定期的なメンテナンスの実施。</li> <li>・冷蔵庫防熱扉の定期整備の徹底。</li> <li>・適正温度管理の徹底（温度計校正の実施）。</li> <li>・冷凍機運転の効率UP（四季にあわせた運転管理）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各冷凍機ユニットコンデンサー定期清掃(1回/年)実施</li> <li>・各低温室冷却器定期洗浄（1回/年）実施</li> <li>・冷却塔(4台)定期清掃(1回/月)実施</li> <li>・冷蔵庫防熱扉パッキン随時整備実施</li> </ul>
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房温度28℃、暖房温度19℃を徹底する。</li> <li>・不在部屋の空調機器の停止の徹底</li> <li>・1,2号棟屋上遮熱塗料による侵入熱の抑制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房28℃、暖房19℃設定継続</li> <li>・不在部屋空調停止徹底</li> <li>・昼休み照明消灯の徹底</li> <li>・各詰所タイマー式ストーブに変更</li> </ul>
1号館自然冷媒化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍機の効率運転データ収集</li> <li>・冷凍機の運転管理設定の見直し、調整</li> <li>・初年度のデフロスト間隔の見直し</li> <li>・運転データを基に省エネ運転を見直す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各冷凍機の運転データを基に、年間運転の最適化を図る。</li> <li>・冷凍機の設定調整による省電力化を数値化する</li> </ul>
1、2号館受電トランス入替	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率トランスに入替を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力データを基に、高効率化による電力消費量の削減を数値化する。前年対比1%削減を目指す。</li> </ul>
1号館LED自動点灯導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時LED庫内照明の自動点灯装置を導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED化が終わり、庫内照明の自動点灯システムを随時導入し、電力消費の削減を目指す。</li> </ul>
1、2号館屋上太陽光導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上太陽光の設置を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力を一部太陽光発電に切り替え、再生可能エネルギーを利用した機器への切り替えを検討する</li> </ul>

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	30 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

- ・長期的安定した、オフサイトPPAサービスの供給変更の導入
- ・屋上太陽光発電の検討

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

- ・非化石証書の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

- ・森林の保全や緑化の保全活動の実施
- ・共同配送やパレット輸送の導入により環境に配慮した輸配送の実施
- ・帳票類の電子化・ペーパーレス化に向けた事務作業の効率化

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組